

図3 南三陸町の人口ピラミッドの推移

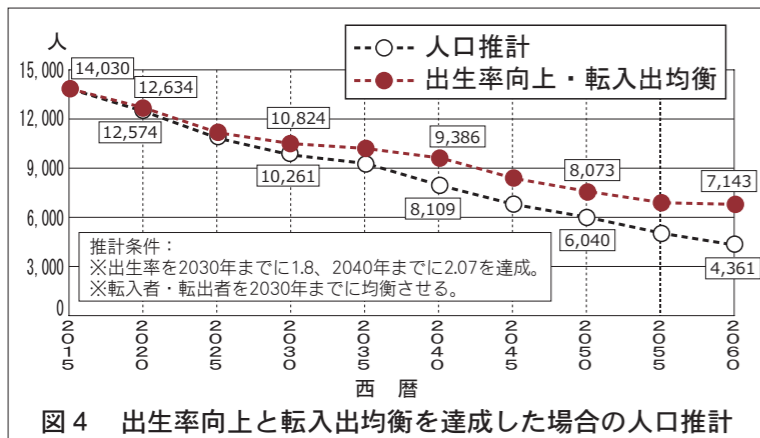


図4 出生率向上と転入出均衡を達成した場合の人口推計

問い合わせ 企画課地方創生・官民連携推進室 ☎46-1371

小さく、今にも倒れそうな形です。しかも人口減少が止まることはありません。この危機感の共有こそ、人口ビジョン策定の意味でもあります。では、何をしなければならぬか、についてはすでにお分かりのことと思います。一つは自然減をくいとめる出生率の向上、もう一つは社会減の原因となる転出超過の

解消です。この2つを達成できた場合の人口推移を試算したものが図4のグラフです。人口は減少するものの、減少率はより緩やかなものとなっています。何よりも人口ピラミッドの形が図3の一番下に示すような「つりがね型」になり、次代を担う子どもたちがしっかりと増えつつあることが見て取れます。

「持続可能なまち」の実現のために、具体的にはどんな手を打っていくのか？その方策を定める南三陸町総合戦略の策定作業を現在進めています。

この戦略の策定と推進に当たっては、町民の皆さんや企業、NPO等の皆さんとの協働が重要です。すでにこの7月から、民間委員会を中心とした総合戦略推進会議を組織して検討を進めているほか、まち・ひと・しごと創生ワークショップによる町民の皆さんとの情報共有、総合戦略案に対するパブリック・コメントも行う予定です。

これからの数十年、人口減少は避けられない現実となりますが、過度に悲観することなく、官民連携をしっかりと進めることで持続可能なまちづくりの「チャンス」に変えていけたらと思います。本件に関するご意見・お問い合わせは、企画課地方創生・官民連携推進室にて承ります。

表1 南三陸町の出生・死亡・転入・転出者数の推移

西暦	自然増減の変化			社会増減の変化	
	出生	死亡	自然増減(出生-死亡)	転入	転出
1980	277	196	81	621	792
1985	265	160	105	543	644
1990	255	157	98	424	688
1995	180	197	-17	407	563
2000	146	201	-55	505	579
2005	136	213	-77	333	490
2010	97	209	-112	328	399
2011	80	964	-884	405	1,720
2012	73	184	-111	270	543
2013	67	186	-119	274	693
2014	62	165	-103	276	692

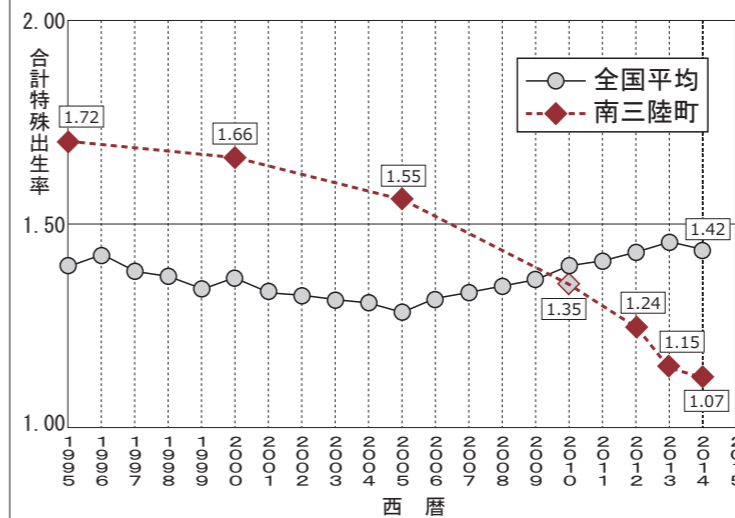


図2 合計特殊出生率の推移

均値である1.15という数値を用いています。日本で出生率といえば、通常は合計特殊出生率のことを指し、これは簡単に言えば「一人の女性が一生の間に産む子どもの数」の平均です。今、この出生率の低下が日本全体の課題となっています。出生率が2を超えないと、人口は減り続ける一方になります。速報による日本の平均出生率は1.42。これを「いかにして2以上に上げていくか」に国を挙げて取り組むことが、根本的な地方創生の目標ともいえます。当町では、図2に示すように、2005年の国勢調査までは全国平均(1.26)を大きく上回る1.55でしたが、前回調査の2010年には1.35と全国平均(1.39)を下回り、この3年間は低水準で推移しています。何もしなければこの水準が続くと仮定して人口の推計を行いました。この1.15という値が、いかに低いかがお分かりいただけるかと思えます。結局のところ、この社会減と自然減に立ち向かわない限り、人口は急激に減少し続け、50年後には町全体が限界集落と化してしまうことから免れない、ということなのです。

図3の人口ピラミッドのグラフでは、もう少し具体的な将来の姿を見ることが出来ます。これは、5歳ごとの人口を男女別に積み上げたもので、その形がピラミッドに似ていることから名づけられました。1980年・2010年・2060年の予想を縦に並べてみました。1980年はその名の通りピラミッドに近い形をしています。2010年のものは高齢者の割合が多いう「つぼ型」と呼ばれる形に変化しています。気になるのは、どちらの場合でも、若年層が年々減っていく傾向があることです。そしてこのまま、2060年に産まれてくる子どもは、全町で年に10人足らずとなることが示されています。59歳より下の人口の割合は非常に

人口ピラミッドの形が大事

会増減。これはその年の転入者数から転出者数を引いたもので、転入超過(社会増)であれば人口増へ、転出超過(社会減)であれば人口減へと傾きます。この町の人口減少は、この自然減と社会減の結果、引き起こされたものと言えます。表1に実際の自然増減と社会増減の様子を示しました。これを見ると1990年まで

は出生数が死亡数を上回る自然増の状態でしたが、1995年以降は自然減が続いていることが分かります。特に近年は生まれる子どもの数が極端に少なくなっていることが気になります。転入・転出はどうでしょうか？1980年からのデータでは、常に転出数が転入数を上回る社会減が続いています。近年の転出数の増加には、震

災の影響も色濃く表れているようです。今回の人口推計に当たっては、震災の影響は、あと3年程度(2017年まで)は続くだろうとの前提で計算しています。その後は、社会減については、おおむね震災前の状況に落ち着くだろうという考え方です。子どもの数に関わる出生率に関しては、直近3年間の平

り、人口は急激に減少し続け、50年後には町全体が限界集落と化してしまうことから免れない、ということなのです。